

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

はじめに

社会福祉法人中日新聞社会事業団は本部並びに北陸、東海、東京、岐阜の4支部にて、社会福祉事業や公益事業への助成など地域に根差した幅広い活動を行っています。

愛知県日進市で運営する児童養護施設「あおば館」と児童心理治療施設「わかば館」からなる中日青葉学園は、昭和35年に虚弱児施設として開設以来、多くの社会的養護の対象児童の健やかな育ちと自立を支援してきました。

令和4年度は、分園「三つ葉」において、4月から男子児童6名が職員とともに生活をスタート。また、管理棟でも近隣の皆さまとの交流が始まっております。

新型コロナウイルス感染症は拡大と減少を繰り返し、令和4年度も数多くの事業が中止や延期となりました。新型コロナと共生する社会への転換が進み日常が戻りつつある今、当法人がどのような意義ある活動をしていけるのか。これまで以上にしっかりと考え、見つめ直し、さらに活動の幅と質を高めていかなければと考えております。

日頃より、ご支援、ご協力をいただいている皆様方に感謝を申し上げ、透明性のある法人運営、事業展開を通じ、一層地域に根ざした社会福祉法人を目指していきます。

令和5年6月

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

事業件数・寄付金収入

当年度は本部と4支部において年間約170件の主催、共催、後援事業を行った。障害者や難病者の自立、社会参加への支援、生活保護家庭や施設入所児童の援助など地域福祉から災害地支援まで、幅広い社会貢献に取り組んだ。

事業件数

	主 催	共 催	後 援	合 計
本 部	2	14	85	101
北陸支部	4	1	1	6
東海支部	14	0	8	22
東京支部	2	0	6	8
岐阜支部	2	2	25	29
合 計	24	17	125	166

寄付金収入一覧

(単位：円)

	本 部		北 陸 支 部		東 海 支 部		東 京 支 部	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
一 般 寄 付	508	94,887,708	39	361,852	30	998,094	15	335,810
年 末 助 け 合 い	294	19,807,145	17	360,257	50	2,316,460	53	1,114,000
指 定 寄 付	20	6,733,836	0	0	0	0	1	30,000
合 計	822	121,428,689	56	722,109	80	3,314,554	69	1,479,810

	岐 阜 支 部		青 葉 学 園		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
一 般 寄 付	47	1,217,922	106	7,337,887	745	105,139,273
年 末 助 け 合 い	72	2,429,812	0	0	486	26,027,674
指 定 寄 付	0	0	0	0	21	6,763,836
合 計	119	3,647,734	106	7,337,887	1,252	137,930,783

※当年度は災害義援金の募金は実施しておりません。

本部(名古屋)

当年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、前年よりは増えたものの、例年約200件実施してきた主催・共催・後援事業は101件の実施にとどまった。一方で、法人運営が円滑に進むよう、各支部と緊密な連絡をとりながら取り組みを実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童福祉施設等支援事業

・離島自然体験活動(10月8～9日)

ファミリーホーム(小規模住居型児童養育事業)で生活する子ども達が、篠島で自然体験を行った。

9月開催予定であったが、天候不良のため10月に延期。海で泳ぐことはできなかったものの、児童と養育者ら約45人が参加し、釣りや砂浜での遊びを楽しんだ。

共催：愛知県ファミリーホーム協議会ほか

また、愛知県児童福祉施設長会や名古屋市児童養護連絡協議会などが主催する文化、スポーツ事業について、共催、後援事業として支援を行った。



◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

a. 児童

・交通遺児支援事業

「交通遺児のために役立てて」と個人や企業か寄せられた寄付金をもとに、交通事故で親を亡くした子どもたちを励ますために行う支援事業。東海交通遺児を励ます会に入っている遺児は東海三県で約110人。恒例の大相撲招待も行うことができた。「第55回交通遺児を励ます大会」は12月18日に開催され、交通遺児とその保護者が集い、支援者や関係者などが交通遺児の健やかな成長を願い激励した。



b. 障がい者

地域社会での障がい者福祉の増進、理解および交流を深めることを目的に、肢体・聴覚・視覚・精神・知的などの障がい者団体が主催する講演会、シンポジウム、研修事業などに対して中日新聞紙面で紹介するなどの支援や助成金などを贈呈した。

c. その他

・第14回福祉の星フォーラム（1月28日）

「福祉」のイメージアップと福祉人材の確保を目指し、講演会と現場で働く職員らによるシンポジウムを開催した。



今年度はふれあいサポート副理事長の中上純二さんが「予防・発見・支援が完結する住民ゾーンの構築を目指して」と題して講演。

また日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員・渡辺哲雄さんをコーディネーターに迎え、福祉分野で活躍する施設職員らが「新しい福祉のカタチ、～私たちが地域とつながる活動」をテーマにディスカッションを行った。会場参加とオンライン参加を併せ100人程の参加があった。

共催：愛知県社会福祉協議会、NHK厚生文化事業団

(2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者

・あいちアール・ブリュット展（9月15日～3月19日）

愛知県内の障がい者の芸術・文化活動を通じて、障がい者の社会参加や、地域住民の障がいに対する理解を深め、障がいの有無をこえた交流が広がることを目指し、障がいのある人からの公募作品や過去の入選作品、企業のノベルティに採用された障がい者の作品等を展示。また芸術系大学の教員が障がい者施設を訪問し行うアート出前講座などの活動を行った。

共催：愛知県、名古屋市文化振興事業団

b. その他

・年末助け合い運動（11月28日～12月28日）

年末の1ヶ月をキャンペーン期間とし、本部には294件、19,807,145円が寄せられた。愛知、岐阜、三重各県の生活保護家庭の小中学生にお年玉を贈るほか、福祉事業に助成した。

・助成を希望する公益事業に対する支援

▽第43回生活保護家庭の小中学生に「お年玉」を贈呈

12月下旬に愛知、岐阜、三重の各県と名古屋市に在住する生活保護家庭の小・中学生合わせて4,441人に、各県市の福祉事務所を通じて「お年玉」（小学生1,500円、中学生2,500円）を贈呈した。

	小学生		中学生		合計	
	人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)
愛知県	788	1,182,000	504	1,260,000	1,292	2,442,000
岐阜県	212	318,000	138	345,000	350	663,000
三重県	487	730,500	311	777,500	798	1,508,000
名古屋市	1,166	1,749,000	835	2,087,500	2,001	3,836,500
合計	2,653	3,979,500	1,788	4,470,000	4,441	8,449,500

▽第66回東海地区特別支援教育振興資金贈呈

心身障がい児や高機能自閉症児、学習障がい児らの教育研究、実践啓発活動を行っている愛知、岐阜、三重、静岡の各県と名古屋市の5つの特別支援教育研究団体に研究助成金として1団体20万円を贈呈した。

▽第48回難病者激励金贈呈

成田山名古屋別院大聖寺(犬山市)と同信徒団体「索(なわ)の会」から寄託された激励金(2,000,000円)を愛知、岐阜、三重の各難病者団体に贈呈した。

県	団体名	県	団体名
愛知	愛知県難病団体連合会	岐阜	岐阜県難病団体連絡協議会
	日本二分脊椎症協会東海支部		岐阜県肝炎の会
	愛知県県筋ジストロフィー協会		岐阜県ヘモフィリア友の会(岐友会)
	愛知心臓病の会		日本ALS協会岐阜県支部
	日本コケイン症候群ネットワーク		日本てんかん協会岐阜県支部
三重	三重難病連	/	
	みえIBD		
	三重県下垂体友の会		
	日本マルファン協会三重支部		
	全国膠原病友の会三重県支部		

(3) 災害援護に関する事業

・東日本復興支援事業

東日本大震災からの復興を目指す団体や被災者支援団体などへの配分事業については、以下の9団体に贈呈した。また、当事業の配分委員らを宮城、岩手、福島の各県に派遣し、配分希望団体の要望の聞き取りや被災地のニーズ調査を実施した。

宮城県	石巻じちれん
	フードバンクいしのまき
	東北駆け込み寺
	チャイルドネットジャパン
	TEDIC
岩手県	桜ライン311
福島県	大熊未来塾
	市民公益活動パートナーズ
	福島就労支援センター

事業一覧

(本部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
4/10	第42回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	安城市総合運動公園
4/16～5/29	令和4年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	星ヶ丘ボウルほか
4/20～11/20	第19回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市	小幡緑地公園ほか
4/23	第10回ジョギングフェスティバル	後援	スペシャルオリンピックス日本・愛知	パロマ瑞穂レクリエーション 広場
4/23～29	陶工房鳴海 陶展・チャリティーバザー	後援	陶工房鳴海	陶工房鳴海
5/8	第71回 児童園遊会	共催	名古屋市、名古屋市社会福祉協議会、 中日新聞社会事業団	東山動植物園
5/26～28	ウェルフェア2022～福祉・医療・健康の総合展～	後援	名古屋国際見本市委員会、名古屋産業振 興公社、名古屋市総合リハビリテーション 事業団、中日新聞社、日刊自動車新聞社	吹上ホール
5/29	第2回モリコロパークローラースキー大会・インライン スキー大会・ローラーシッティングスキー体験会	後援	愛知県スキー連盟	モリコロパーク
5/31～6/1	第75回全国視覚障害者福祉大会(名古屋大会)	後援	名古屋市視覚障害者協会、日本視覚障害 者団体連合	ANAクラウンプラザホテル グランコート名古屋
6/1～10/31	令和4年度 東海地区特別支援教育振興資金贈呈	主催	中日新聞社会事業団	贈呈式は中止
6/5	第58回名肢体登山大会	後援	名古屋市肢体障害者福祉連合会	※中止
6/5～2/12	福祉に関するレクリエーション講習会	共催	愛知県レクリエーション協会	愛知県教育会館ほか
6/7～1/17	令和4年度面接相談事業	後援	愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館ほか
6/18～19	第33回東海聴覚障害者体育大会	後援	東海聴覚障害者連盟 (主管)第33回東海 聴覚障害者体育大会実行委員会	グリーンバレス春日井体育館 ほか
6/25	第49回 全国児童養護問題研究会 全国大会(愛知 大会)	後援	全国児童養護問題研究会	オンライン
6/25～26	令和4年度東海北陸ブロック里親研究大会あいち大会	後援	愛知県里親会連合会	中部国際空港セントレアホール
7月～3月	第44回 音楽の集い「一宮大会」	共催	愛知県児童福祉施設長会	各児童福祉施設 (撮影した動画をDVDに編集 して実施)
7/3	第38回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	豊川市勤労福祉会館
7/3	令和4年度 療育事業	後援	愛知県知的障害者育成会	滋賀県長浜市周辺
7/21～29	第65回 福祉施設「海の家」	共催	名古屋市、名古屋市社会的養育施設協議会	篠島海水浴場
7/21～8/31	令和4年度 夏期高校生ボランティア活動	後援	中部善意銀行	愛知県内社会福祉施設
7/1～3/31	愛知県精神保健福祉の増進に関するネットワークづ くり実施事業	後援	愛知県精神障害者家族会連合会	愛知県白壁庁舎内会議室ほか
8/1～3/26	インクルージョンフェスティバル2022	後援	インクルージョン実行委員会	中部国際空港ほか
8/2～12/3	第31回 AICHI高校生交流会	共催	AICHI高校生交流会 実行委員会	常滑市市民交流センター、 大東旅館
8/12～27	第44回東海北陸地区特別支援教育研究大会 名古屋大会	後援	全日本特別支援教育研究連盟、東海北陸 地区特別支援教育研究協議会、名古屋市 特別支援教育研究協議会	オンライン
8/17	令和4年度 愛知県児童福祉施設入所児童卓球大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	日進市スポーツセンター
8/20	第58回重度在宅児・者研修旅行	後援	名古屋手をつなぐ育成会	南知多ビーチランド
8/20～10/16	第48回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	豊明共生交流プラザ カラット、 愛知教育大学 特別支援教育棟

8/27~28	2022愛知県車いすテニス大会 in NAGOYA (第68回東海車いすテニス大会)	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会、愛知県車いすテニス協会	東山公園テニスセンター
8/28	令和4年度 愛盲連文芸大会	後援	愛知県盲人福祉連合会	明生会館
9/3~5	第4回名古屋コインショー	後援	日本貨幣商協同組合	ウインクあいち 6階展示場
9/3~10/20	東海特別支援教育カンファレンス2022 (第10回東海カンファ)	後援	東海特別支援教育カンファレンス実行委員会	オンライン
9/6	令和4年度 第16回ファミリーホーム全国研究大会 (名古屋大会)	後援	日本ファミリーホーム協議会、名古屋市ファミリーホーム協議会	オンライン
9/8~11/5	青少年の自立支援事業「スマイルサポートプログラム2022」	後援	愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館、愛知県青年の家
9/9	GGSC スマイルアクション in NAGOYA	後援	ぶくぶくばるーん	中部電力 MIRAI TOWER
9/10~11	第55回全国肢体不自由児者父母の会連合会 全国大会・第57回東海北陸肢体不自由児者父母の会連合会 愛知大会	後援	全国肢体不自由児者父母の会連合会、東海北陸肢体不自由児者父母の会連絡協議会、愛知県肢体不自由児・者父母の会連合会	ロワジールホテル豊橋
9/10~12/10	第70回 手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/11	里親家庭交流会 ぶどう狩り体験学習	後援	名古屋市里親会こどもピース	常果園
9/11	最も自由な人たちVol.9 ～東海北陸のミュージックブリュット! 超個性派パフォーマンスが大集合!～	後援	東海北陸ブロック障がい者芸術文化活動広域支援センター、希望の園、ポバイ	Live&Lounge Vio
9/15~3/19	令和4年度 あいちアール・ブリュット展	後援	愛知県(福祉局福祉部障害福祉課)	名古屋市市民ギャラリー矢田ほか
9/17~18	第54回愛知県身体障害者作品展	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会、弥富市身体障害者福祉会	弥富市総合社会教育センター
9/19	NPO法人愛知県難病団体連合会第49回大会	後援	愛知県難病団体連合会	ウインクあいち5階 小ホール2
9/24	親子なかよしキャンプ デイキャンプ	後援	特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会	※中止
9/24	第7回 パールオープン交流卓球大会	後援	西尾市卓球協会 (主管)西尾パール卓球クラブ	西尾市総合体育館
10/1	ストレス・コントロール 一心身の健康維持・増進のためにー	後援	幸せつむぎ	豊明市文化会館
10/1~3/10	名古屋少年友の会更生保護行事	後援	名古屋少年友の会	愛知少年院、瀬戸少年院、豊ヶ岡学園、立正園ほか
10/2	2022年度 世界精神保健デー普及啓発事業 「アルテ・エ・サルテー「マラー/サド」～日伊精神障害者共同演劇配信プロジェクト～」	後援	文化庁、東京ソテリア、エミリア・ロマーニャ州立ボローニャ地域保健連合機構精神保健局、エミリア・ロマーニャ演劇劇団、アルテ・エ・サルテーAPS	なごのキャンパス体育館
10/2	第27回長良川ふれあいマラソン大会	後援	長良川ふれあいマラソン大会実行委員会	木曾三川公園特設会場
10/2	公益社団法人 日本リウマチ友の会第59回愛知支部大会	後援	日本リウマチ友の会 愛知支部	ウインクあいち 5階小ホール2
10/7~11	第74回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会、市区町村共同募金委員会、愛知県社会福祉協議会、市区町村社会福祉協議会	NHK名古屋放送センタービル 1階 プラザウェーブ21
10/8~9	夏だ!、海だ!、篠島だ! 家庭養護の仲間たちで作る離島自然体験活動	後援	愛知県ファミリーホーム協議会	篠島 浜辺の宿 大舟
10/9	第48回名視協文化祭	後援	名古屋市視覚障害者協会 文化部	名身連福祉センター 4階ホール
10/12~12/10	第78回ボランティアスクール	後援	あさみどりの会	オンライン
10/15~2/18	名古屋手をつなぐ育成会 青年教室	共催	名古屋手をつなぐ育成会	サポートセンターbeing若水ほか
10/23	第32回 名古屋市精神障害者家族交流事業「晴れときどき虹」	後援	名古屋市、名古屋市精神障害者家族会連合会	鯉城ホール
10/30	第19回ニューミックステニス(岩倉大会)	後援	岩倉市テニス協会、愛知県車いすテニス協会	岩倉市野寄テニスコート
11月~3月	第36回ふれあいフォトコンクール	後援	愛知県社会福祉協議会	愛知県社会福祉協議会

11/3	令和4年度 愛知県児童福祉施設入所児童ソフトボール大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	幸田町とほね運動場
11/12	第60回愛知県子ども会大会	後援	愛知県、愛知県子ども会連絡協議会、愛知県社会福祉協議会、中日新聞社	名古屋市公会堂 大ホール
11/13	令和4年度三重県母子寡婦福祉大会	後援	三重県母子寡婦福祉連合会、鳥羽市母子父子寡婦福祉会	鳥羽市民体育館 サブアリーナ
11/13~30	第21回あいち障害者フライングディスク競技大会	共催	あいち障害者フライングディスク協会	オンライン
11/18	第15回 健康づくりウォーキング大会	後援	名古屋市老人クラブ連合会	東山公園一万歩コース
11/19	第20回全国身体障害者グラウンド・ゴルフ岐阜大会	後援	岐阜県障害者スポーツ協会	岐阜メモリアルセンター
11/20	令和4年度愛知県母子寡婦福祉大会	後援	愛知県母子寡婦福祉連合会	愛知県社会福祉会館
11/21~27	第22回 令和4年度 作品展「てをつなぐ」	後援	愛知県知的障害者育成会	豊橋市こども未来館ここにこ
11/23~27	第14回ふれあいアート展	後援	愛知県知的障害児者生活サポート協会	電気文化会館5階 東ギャラリー
11/15	第55回愛知県視覚障害者福祉大会(安城大会)	後援	愛知県盲人福祉連合会	安城市文化センター
11/20	第67回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋市	名古屋市公会堂 4階ホール
11/28~12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団	本部、愛知、三重県内の総支局など
12月3日	第40回 愛知県心身障害児(者)福祉大会	後援	愛知県心身障害児(者)福祉団体連絡協議会	愛知県社会福祉会館5階 第1研修室
12/3~4	ジャパン・ミュージックブリュット・フェスvol.3 Do it!! ~全人類青春継続支援事業!~	後援	東海北陸ブロック障がい者芸術文化活動広域支援センター、愛知県障害者芸術文化活動支援センター(愛知アート・コレクション)、希望の園、ポパイ	Live&Lounge Vio
12/3~11	令和4年度小牧市障がい者作品展 こまきアール・ブリュット展	後援	小牧市	まなび創造館市民ギャラリー、中央図書館イベントスペース
12/8	令和4年度地域共生社会推進セミナー	後援	愛知県社会福祉協議会	アイリス愛知
12/9~11	第20回尾西作家協会チャリティー展	後援	尾西作家協会、一宮市教育委員会、一宮市芸術文化協会	一宮市三岸節子記念美術館
12/9~18	あいち高次脳機能障害リハビリテーションWeb講習会	後援	あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会、愛知県、名古屋市、名古屋市総合リハビリテーション事業団、高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」、高次脳機能障害友の会みずほ	オンライン
12/11	第4回名美歳末チャリティー茶会	後援	名古屋美術商協同組合、名古屋美術倶楽部	名古屋美術倶楽部
12/11	第61回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会、知多市身体障害者福祉協議会	知多市勤労文化会館
12/13	20周年の集い	後援	愛知県知的障害児者生活サポート協会	名古屋国際会議場 白鳥ホール
12/17	日本特殊陶業株式会社がお贈りする第10回ファミリーミュージカル	後援	日本特殊陶業株式会社	日本特殊陶業市民会館 フォレストホール
12/18	第55回交通遺児を励ます大会	後援	東海交通遺児を励ます会	サイプレイスガーデンホテル
12/22	愛知県社会福祉協議会設立70周年記念・第70回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、愛知県共同募金会	ドルフィンズアリーナ
12/24	2022中日青葉学園招待スケート教室	主催	中日新聞社会事業団	名古屋スポーツセンター
12/24	第28回東海地区特別支援学校知的障害教育校サッカー大会	後援	東海地区特別支援学校知的障害教育校校長会、東海地区特別支援学校知的障害教育校PTA連絡協議会(主管)三重県立杉の子特別支援学校石薬師分校	三重交通Gスポーツの杜鈴鹿
12/24	ISOGAI花火劇場in名古屋港 ~次世代を担う子供たちに美しい花火を~	後援	ISOGAI花火劇場	名古屋港ガーデンふ頭

12/25	令和4年度 第13回 愛知県児童福祉施設フットサル大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	武田テバオーシャンアリーナ
1/7~8	地球組コンサート 22周年 “アイツムギ、うたつむぎ”	後援	少年少女合唱団 地球組	日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール
1/21~23	第46回世界の貨幣まつり	後援	日本貨幣商協同組合	ウィンクあいち 8階展示場
1/24~2/1	第60回 特別支援教育展「きらめき展」	共催	名古屋市特別支援教育研究協議会、名古屋市教育委員会、名古屋市立小中学校長会、中日新聞社、中日新聞社会事業団	名古屋市民ギャラリー栄 8階
1/28	令和4年度 福祉の星フォーラム	共催	愛知県社会福祉協議会、NHK名古屋放送局、NHK厚生文化事業団、中日新聞社、中日新聞社会事業団	愛知県社会福祉会館 5階第1研修室
1/28	第25回 あした天気にな〜れ ~誰もが安心して暮らせる街づくり~	後援	愛知県精神保健福祉士協会	名古屋国際会議場 141・142会議室
1/31~2/5	みんなのアート展あいち	後援	愛知県知的障害者福祉協会	豊川市桜ヶ丘ミュージアム
2/4	NHKハートフォーラム 名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋 講演会「実は身近な発達障害」	後援	名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋、NHK名古屋放送局、NHK厚生文化事業団	ウィンクあいち 大ホール
2/7~12	第57回名古屋市障害者作品展	後援	名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館
2/8	令和4年度 第37回愛知県児童福祉施設親善マラソン大会	共催	愛知県児童福祉施設長会	サンテバルクたはら
2/14~3/24	第41回 障害者作品即売会「福祉の店」	後援	愛知県、名古屋市、愛知県セルフセンター、愛知県知的障害者福祉協会、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会、愛知県身体障害者福祉団体連合会、名古屋市身体障害者福祉連合会	イオンモールナゴヤドーム前、名鉄百貨店一宮店正面玄関、西尾おしろタウンシャオ、イオン豊橋南店、金山総合駅コンコース特設会場
2/21~26	つむぎの展 「広がる希望」	後援	幸せつむぎ	愛知芸術文化センター
2/28	第11回あ・い・ち・ふ・く・しシンポジウム	共催	愛知県社会福祉協議会	中日新聞Webサイト、愛知県社会福祉協議会ホームページ、YouTube
3/10	RDD(Rare Disease Day) 2023 in あいち	後援	愛知県難病団体連合会	ナディアパーク2階アトリウム
3/12	第40回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい	後援	愛知県聴覚障害者協会	Home&nicoホール
3/19	第29回全日本選抜フロアバレーボール愛知大会 ANGEL CUP2023	後援	愛知県フロアバレーボール協会	ドルフィンズアリーナ (愛知県体育館)
3/19	第51回中学を卒業する交通遺児を励ます集い	後援	東海交通遺児を励ます会	サイプレスガーデンホテル
3/21	第18回日本ブラインドテニス中部日本大会	後援	日本ブラインドテニス連盟 (JBTF) 中部地域協会	名東スポーツセンター、名古屋市障害者スポーツセンター

北陸支部

本部や中日新聞北陸本社、富山主幹支局と緊密な連携をとりながら各県内の関係機関、団体などの協力を得て当年度の事業を推進した。

◇社会福祉事業

(1) 社会福祉事業に関する助成を行う事業

・大井中日就学（職）支援（3月1日～31日）

七尾市の中高生の就学を支援してきた「大井中日奨学福祉財団」の解散に伴い、平成24年3月に引き継いだ残余財産を、趣旨及び継続を考慮した「大井中日就学・就職支援金」として当年度も実施した。

県内にある児童養護施設8施設で暮らす中学校の卒業生に贈呈。今春高校に進学、就職する子どもたち14人に新生活の準備に役立ててもらおう。

(2) 児童養護施設等支援事業

・児童養護施設入所児童を北陸中日新聞主催「ざんねんないきもの事典」に招待

年1回、北陸中日新聞主催事業に石川県内の児童養護施設に入所している子ども達を招待。当年度は石川県内の8施設に招待案内を出したところ、6施設から申し込みがあり、計147名を招待した。

・乳児院に図書カード贈呈（7月1日～31日）

石川県内の乳児院2施設、富山県内の乳児院1施設に、1施設あたり20,000円の図書カードを贈呈した。

(3) 助成を希望する障がい者関連施設に対する支援

・年末助け合い運動（11月28日～12月28日）

中日新聞北陸本社と連携をとり、広く募金活動を展開。支部では17件、360,257円の募金が集まり、石川・富山県内の障がい者就労施設6施設へ届けた。

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

- ・あすなる親の会（ひきこもりを考える会）例会（月1回・石川県内各所）

ひきこもりの子どもを持つ親たちが、月1回石川県内の会場で意見交換会やひきこもりへの理解を深めるため講師を招いて講演会を開いた。

(2) 社会福祉、保健医療の向上を目的とする事業の実施及び支援

a. 障がい者

- ・「金沢手をつなぐ親の会水泳大会」を支援

障がいのある子どもたちの保護者らで運営している金沢手をつなぐ親の会が開催している大会。日常の体育訓練を通して、知的障がい児の身体的、心理的発達、社会的適合の促進向上を目指した水泳大会の参加者に、参加記念品の購入費用を助成した。

b. その他

- ・北陸本社内に古切手BOXを設置し、読者から寄附された古切手とあわせて換金し、事業資金に充てた。

(3) 災害援護に関する事業

当年度はなし。

事業一覧

(北陸支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
7/1~31	乳児院に図書カードを贈呈	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川県、富山県内の乳児院
7/16~8/21	児童養護施設入所児童を北陸中日新聞主催展覧会「ざんねないきもの事典」に招待	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	金沢エムザ
11/19	第41回金沢手をつなぐ親の会水泳大会	後援	金沢手をつなぐ親の会	金沢市西部市民体育館プール
11/28~12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川・富山県の障がい者就労施設(贈呈は2月)
3/1~31	大井中日就学(職)支援金贈呈	主催	中日新聞社会事業団北陸支部	石川県内の児童養護施設
毎月	あすなろ親の会(ひきこもりを考える会)例会	共催	あすなろ親の会	石川県内

東海支部

中日新聞東海本社と緊密な連携を取り、恒例の主催事業や児童養護施設からの要望を踏まえた支援を行うなど社会福祉事業にも力を入れ、静岡県下での当年度の事業を実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童養護施設等支援事業

- ・児童養護施設すみれ寮入所者の誕生日プレゼントへ補助金贈呈（4月～3月）

児童養護施設すみれ寮から、施設予算だけでは入所者の誕生日プレゼントに子供たちの希望する品を購入できないと相談があり、一人につき小学生以下(6人)に2,000円、中学生以上(8人)に4,000円の補助金を贈呈した。

- ・「令和4年度静岡県児童福祉施設夏季スポーツ交流会」に参加賞購入費一部を助成（11月19日）

年1回静岡県内の児童養護施設12カ所が参加して行われていた「児童福祉施設夏季球技大会」が終了し、施設間交流に代替として行われたもので、参加賞として配られる菓子の購入費用20,000円の助成を行った。

- ・浜松市内児童福祉施設出身の大学生らへ年末生活支援一時金を贈呈(12月23日)

生活が困窮しがちと言われる児童養護施設出身の大学生に対し、年末の生活支援にと浜松市内の児童養護施設3カ所の施設を通じて生活支援一時金30,000円を13人に贈呈した。



代表して生活一時金贈呈目録を受け取る大学生＝児童養護施設わこうで

- ・浜松市内児童福祉施設入所者の高校進学者へお祝い金贈呈（3月17日）

浜松市内児童養護施設3カ所に入所している令和5年度高等学校進学の子供12人に、激励の意を込めて1人30,000円のお祝い金を贈った。



お祝い金目録贈呈 児童養護施設清明寮で

（2）その他

招待事業

- ・浜松市内の母子生活支援施設および児童養護施設入所者に夏休みイベントのチケットを贈呈（7月6日）

浜松市内の母子生活支援施設1カ所と児童養護施設3カ所の入所者へ浜松市役所こども家庭部を通じて「ざんねんないきもの事典inアクトシティ浜松」のチケットを贈呈した。8月5日～15日の期間中に引率者を含む156名が会場を訪れ楽しんだ。

- ・浜松市内の児童養護施設入所の高校生にミュージカルのチケットを贈呈
(10月12日)

舞台鑑賞により豊かな感受性育成の一助となるようにと、浜松市内の児童養護施設3カ所の高校生の希望者5名へ11月6日にアクトシティ浜松大ホールで行われたミュージカル「ミス・サイゴン」のチケットを贈呈した。

◇公益事業

（1）研修会・講演会・講座の開催、支援事業

招待事業

- ・第44回静岡県ボランティア研究集会（2月19日）

静岡県内でボランティア活動に関わる人が集い、情報交換や話し合いを通じた学習、ネットワーク作り強化が目的。会を後援し、運営援助金50,000円を贈った。

主催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会、公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会

(2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者

・第23回東海地区盲学校フロアバレーボール大会（7月9日）

愛知、静岡、岐阜、三重県内の盲学校や視覚特別支援学校の生徒によるフロアバレーボール大会。技術や体力向上をめざし、また生徒同士の交流と親睦を図る目的で開催。大会を後援し、参加賞のタオルを贈った。

主催：東海地区盲学校体育連盟

b. その他

・第39回中日ボランティア賞（贈呈式10月13日）

静岡県内で積極的なボランティア活動に取り組む団体を顕彰する主催事業。静岡県、同県社会福祉協議会、同県ボランティア協会、浜松市が後援し、浜松市を除く後援3団体より13件の推薦を受けた。

受賞6団体（静岡県西部4団体、中部1団体、東部1団体）を選考委員会で決定。ホテルコンコルド浜松で贈呈式を行い、賞状と奨励金（1団体150,000円）を贈った。



第39回中日ボランティア賞受賞団体代表者ら
＝浜松市で

・浜松市内ひとり親世帯の小・中・高生へ学業奨励（新聞購読）事業

（8月1日～31日）

浜松市在住のひとり親世帯の小・中・高校生に対し、長期休暇中の時間を有効に使って新聞に親しみ、時事問題への興味や読解力向上に役立ててもらうことを目的に、こどもウイークリーや中日新聞朝刊を届けた。また希望者には中日春秋書き写しノートも贈った（こどもウイークリー9人、中日新聞朝刊11人、ノート6冊）。終了後のアンケートでは、「また来年も利用したい」「新聞を手に入るいい機会になった」「子どもが夏休みの宿題に活かしていた」「親子の会話のきっかけにもなった」などとあり、好評だったことがうかがえた。

・年末助け合い運動（11月28日～12月28日）

中日新聞東海本社と連携をとり、広く募金活動を展開した。寄付金は50件、総額で2,316,460円となった。

・第41回ふるさと知名人チャリティー色紙展 (11月19日、20日)

静岡県にゆかりのある知名人（画家・書道家・版画家・漫画家など）から、色紙作品の寄贈を受け展示。来場者が1枚4,000円で購入（一部入札あり）、その収益金を寄付金とする主催事業。中日新聞東海本社と連携をとり、浜松市の遠鉄百貨店の協力を得て開催。経費を除いた収益金の半額を年末助け合い運動資金に加え、半額を静岡県社会福祉協議会に贈った。



市民らでにぎわう第41回ふるさと知名人チャリティー色紙展＝浜松市で

・生活保護家庭の中学生に図書カード贈呈 (12月12日)

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の中学生183人（浜松市151人、湖西市2人、磐田市9人、袋井市10人、掛川市8人、御前崎市3人）に、激励の意を込め図書カード1人5,000円分を贈った。

お礼状には、高校受験やテストに備えて参考書を買ったと書いている生徒が多く、図書カードを有益に使っている様子がうかがえた。

・生活保護家庭の小学校新入学児童に図書カード贈呈 (2月14日)

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の新年度小学校へ入学する児童32人（浜松市24人、袋井市5人、掛川市2人、御前崎市1人）に図書カード1人3,000円分を贈った。保護者からのお礼状には子どもが欲しがっていた絵本を購入したとの声や、覚えてたのひらがなでありがとうと書かれた新入学児童直筆のものもあった。

・社会福祉事業資金造成 第39回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会
(3月15日)

社会福祉事業資金造成を目的として豊岡国際カントリークラブで開催し、上位入賞者にトロフィーを贈呈。チャリティー基金として参加費の一部など80,000円の社会福祉事業資金が集まった。

・立浪監督トークライブおよびサイン入りグッズチャリティー販売（1月21日）

浜松市で中日新聞東海本社が開催した中日ドラゴンズ立浪監督トークライブを後援し、トークライブ入場者対象とした立浪監督のサイン入りグッズのチャリティー販売を中日新聞社会事業団の主催で行った。チャリティー販売の売上金90,000円を社会福祉事業資金として計上した。



トークショーでチャリティーグッズの抽選を行う立浪監督＝浜松市で

・第36、37回スズキビジネスチャリティゴルフ大会（7月6日、12月14日）

地元企業が主催するチャリティゴルフ大会。困窮している浜松市のペルー人学校を支援する目的で寄付を募る目的で開催しており、本大会を後援した。

主催：株式会社スズキビジネスチャリティゴルフ大会実行委員会

・静岡県ボランティア協会年次レポート発行への助成（5月）

昭和52年に民間のボランティア活動推進機関として設立された静岡県ボランティア協会が平成19年4月に30周年を迎えた。これを記念し、同協会ではその後毎年年次レポートを発行しており、今年も助成金として50,000円を贈った。

主催：特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

事業一覧

(東海支部)

開催日	事業	主催/後援 (連携)	主催者	会場
4月～3月	児童養護施設すみれ寮入所者の誕生日祝補助	主催	中日新聞社会事業団東海支部	児童養護施設すみれ寮 (浜松市)
5月	静岡県ボランティア協会 年次レポート発行への助成	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会	静岡県
7/6	第36回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	スズキビジネスチャリティ ゴルフ大会実行委員会	いなさゴルフ倶楽部 浜松コース(浜松市)
7/9	第23回東海地区盲学校 フロアバレーボール大会	後援	東海地区盲学校体育連盟	静岡県小笠山総合運動公園 「エコパ」(袋井市)
7/6	浜松市内の母子生活支援施設および児童養護施設入 所者に「ざんねんないきもの事典 in アクトシティ 浜松」のチケット贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市役所 (イベントは8/5-15アクティ シティ浜松イベントホール)
8/1～31	浜松市内ひとり親世帯小・中・高生へ 学業奨励(新聞購読)事業	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内
10/12	児童養護施設入所の高校生に ミュージカル「ミス・サイゴン」のチケット贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内 (公演は11/6アクティシティ浜 松大ホール)
10/13	第39回中日ボランティア賞贈呈式	主催	中日新聞社会事業団東海支部	ホテルコンコルド浜松(浜松市)
11/19～20	第41回ふるさと知名人チャリティー色紙展	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	遠鉄百貨店イ・コイ スクエア6階 ギャラリー・ロゼ(浜松市)
11/19	令和4年度静岡県児童福祉施設夏季スポーツ交流会	後援	静岡県児童養護施設協議会	狐ヶ崎ヤングランドボール (静岡市)
11/26	第35回静岡オレンジマラソン大会	後援	静岡県知的障害者福祉協会 静岡県手をつなぐ育成会 (特非)静雄見作業所連合会・わ	静岡県草薙総合運動場 (静岡市)
11/28～12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団東海支部	中日新聞東海本社ほか 静岡県内
12/14	第37回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	スズキビジネスチャリティ ゴルフ大会実行委員会	いなさゴルフ倶楽部 浜松コース(浜松市)
12/12	静岡県西部地区生活保護家庭の中学生に 図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
12/23	児童養護施設出身大学生らへ 年末生活支援一時金贈呈(振込)	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設
1/21	立浪和義監督トークライブ	後援	中日新聞東海本社 中日ドラゴンズ	グランドホテル浜松風の間 (浜松市)
1/21	立浪和義監督トークライブでのチャリティー販売	主催	中日新聞社会事業団東海支部	グランドホテル浜松風の間 (浜松市)
2/19	第44回静岡県ボランティア研究集会	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会ほか	浜松市福祉交流センター
2/14	静岡県西部地区生活保護家庭 小学校新入学児童に図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
3/15	社会福祉事業資金造成 第39回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	豊岡国際カントリークラブ (磐田市)
3/17	浜松市内交通遺児の高校進学者へお祝い金贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内
3/17	児童養護施設入所の高校進学者へお祝い金贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設

東京支部

本部および中日新聞東京本社（東京新聞）と緊密な連携をとりながら、東京都を中心とした関東1都6県で、発行銘柄にあわせて『東京新聞社会事業団』名で当年度の事業を実施した。

◇社会福祉事業

年末助け合い運動で寄せられた寄付の一部を特別養護老人ホーム、障がい者支援施設などへ助成した。

◇公益事業

(1) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者支援事業

・2022グリーンリボン ランニング フェスティバル（10月10日）

東京新聞などが主催し、健常者と視覚などの障がい者、臓器移植者が一緒に走る事を目的とした大会を後援した。

・第26回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会（11月15日～12月18日）

支援の実践と制度づくりにむけた課題提起・制度改善の取り組みを後援した。

・第20回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート

「武久源造 リサイタル with バロックダンス 岩佐樹里」（11月27日）

社会福祉法人日本点字図書館が活動資金の一助とするために毎年開催しているチャリティコンサートを後援した。

・前川喜平さん「教育」「共育」講演会（12月18日）

「障がいのある人もない人もお年寄りも誰もが共に」をテーマにした講演会を後援した。

・保護者のためのZOOM特別支援教育講演会（3月6日～12日）

障がい児の保護者・特別支援教育に関心ある方など向けの講演会を後援した。

b. 高齢者支援事業

・「第49回国際福祉機器展」(10月5日～7日)

例年、社会福祉法人 全国社会福祉協議会、一般財団法人保健福祉広報協会と協力して、高齢者や障がい者らの自立や社会参加に役立つ福祉機器展(東京ビッグサイト)に「協賛」名義で協力している。オンラインによるWEB展示会方式も併用するハイブリッド開催。

c. その他

・「わじまかんだエコバッグ」の贈呈(9月下旬)

東京新聞が出版した自閉症の兄妹アーティストの本、『みんなしあわせ。兄妹アーティスト KANTA&KAEDE』の記念エコバッグを障がい者支援施設などに寄贈した。

・清瀬市社会福祉協議会 歳末チャリティ カレンダー市(12月下旬)

清瀬市社会福祉協議会の要請により、カレンダー、クリアファイル、メモ帳などを寄贈した。

(2) その他の事業

・年末助け合い運動

東京新聞と同支局などの協力を得て、年末助け合い運動を11月28日から12月28日まで行った。期間中に53件1,114,000円が寄せられた。

事業一覧

(東京支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
8/14~15	第26回全日本IDバレーボール選手権大会 ※中止	後援	日本IDバレーボール連盟	千葉県浦安市運動公園総合体育館
9月下旬	「わじまかんだエコバッグ」贈呈	主催	中日新聞社会事業団 東京支部	都内の障がい者支援施設など5か所
10/5~7	第49回 国際福祉機器展	協賛	(福)全国社会福祉協議会 (一財)保険福祉広報協会	東京ビッグサイトおよびWEB展示会
10/10	2022グリーンリボン ランニング フェスティバル	後援	中日新聞東京本社(東京新聞)ほか	駒沢オリンピック公園および陸上競技場
11/15~12/18	第26回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	(福)東京聴覚障害者福祉事業協会	ネット動画配信、オンライン分科会、東京都青梅市福祉センター
11/28~12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団 東京支部	東京新聞の発行エリア
11/27	第20回 本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート 「武久源造 リサイタル with パロックダンス 岩佐樹里」	後援	(福)日本点字図書館	東京文化会館小ホール
12/18	前川喜平さん「教育」「共育」講演会	後援	所沢・教育と福祉を問い直す会	所沢市まちづくりセンター中央公民館
12月下旬	清瀬市社会福祉協議会 歳末チャリティ カレンダー市	連携	(福)清瀬市社会福祉協議会	清瀬市社会福祉協議会事務所ほか
3/6~12	保護者のためのZOOM特別支援教育講演会	後援	(一社)障がい児成長支援協会	ZOOMによるオンライン講演会

岐阜支部

当年度は、コロナ禍で一部の後援事業が中止となったが、主催・共催事業は感染予防対策を講じて実施するなど、本部や中日新聞岐阜支社と緊密に連携をとりながら、地域に密着した事業を実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童養護施設等支援事業

- ・第5回中日ロボラぎふ就学（職）支援金贈呈式（2月2日）

県内の児童養護施設に入所している高校3年生に対し、大学や専門学校への進学及び就職など新生活に向けての準備を支援するため、各対象児童の個人口座へそれぞれ3万円を銀行振込で支給した。

贈呈式では、岐阜県児童福祉協議会の横川会長が代表して目録を受け取った。

当年度(第5回)の対象者：31名



横川会長⑤に目録贈呈、河津理事長が感謝状受領

◇公益事業

(1) 保健医療相談支援事業

中日新聞岐阜県版での「社会事業団岐阜支部だより」（毎週掲載）を通じて告知し、募集の支援を行った。

〈主な相談内容〉

- ・薬物依存症医療電話相談（毎月第2水曜日）を共催

薬物依存症自立支援団体「岐阜ダルク」と協力して、同症からの自立支援を目的に、薬物やアルコール依存症の患者及び家族に対しての電話相談を行った(年間10回)。 主催：NPO法人 岐阜ダルク

- ・「心の病電話相談」（毎週火、木、金曜日）を後援

精神疾患に伴う悩みを抱えている人に向けての電話相談窓口を開設し、本人及びその家族の支援を行った(年144回実施)。

主催：NPO法人 岐阜県精神保健福祉会連合会

・「認知症介護者のつどい」を後援

認知症の人と家族の会が主催し、認知症の介護経験を持つ相談員による介護相談を行った。

※コロナ禍で前年度試験的に実施したメール相談を中止し、対面形式のつどいを復活させた。

※岐阜地区の会場として、岐阜中日ビル会議室を使用した。

主催：(公社)認知症の人と家族の会岐阜県支部

(2) 研修会・講演会・講座の開催支援

a. 研修会

・岐阜県難病団体連絡協議会が会員を対象に実施した「ピアサポート研修会」を後援(11月27日)

b. 講演会・講座

・ぎふ難聴者協会「聞こえサポートフェア」(8月28日)及び要約筆記かがり火講習会(1月29日)を後援

(3) 社会福祉向上目的とする事業の実施、支援事業

a. 障害者スポーツ支援事業

・特別支援学校の高等部生徒による陸上競技大会(10月8日)及び駅伝競走大会(12月3日)を後援

・CPサッカー(脳性まひ等による7人制サッカー)全日本選手権大会(11月5、6日)を後援

・東海地区盲学校球技(ゴールボール)大会(11月12日)を後援

・全国身体障害者グラウンドゴルフ大会(11月19日)を後援

b. 障害者支援事業

・中部手話スピーチコンテスト30周年記念講演会を共催(11月20日)

主催：中部学院大学、同短期大学部

中部手話スピーチコンテストを1992年から開催して30周年を迎えたのを記念し、過去の受賞者からその後の活躍について、手話で発表する記念講演会を共催した。



- ・「ふれあいアートステーションぎふ」(障害者の作品展)を後援

(8月19～29日、11月15～28日、1月17～30日)



主催：(一社)岐阜県身体障害者福祉協会
「ふれあいアートステーション・ぎふ応募作品展」に参加の障害者の作品を、各回11作品を展示し、その活動と作品を紹介した。

c. 子育て支援事業

- ・岐阜市の母子家庭 東京ディズニーリゾートバス旅行は、コロナ禍で3年連続延期した。

主催：岐阜市母子寡婦福祉連合会

d. その他

- ・社会福祉団体及び公益団体への活動助成金贈呈

岐阜県児童福祉協議会や刑務所篤志面接委員協議会など、岐阜県内の社会福祉団体及び公益団体の計10団体の活動を後援した。

- ・年末助け合い運動(11月28日～12月28日)

岐阜県内の福祉施設や福祉団体の支援のため、中日新聞岐阜支社と各支局・通信局部などの協力を得て中日新聞紙面に寄託者を紹介し、年末助け合い運動を展開した。

事業一覧

(岐阜支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
年間	認知症介護者のつどい	後援	認知症の人と家族の会岐阜県支部	岐阜中日ビルなど 県内各地15会場
毎週 火木金	「心の病」電話相談(年間144回開催)	後援	岐阜県精神保健福祉連合会	岐阜県精神保健福祉連合会事務所(岐阜市)
毎月 第2水	薬物依存症医療電話相談(年間10回開催)	共催	岐阜ダルク	岐阜ダルク事務所(岐阜市)
5月	岐阜刑務所篤志面接活動助成	後援	岐阜刑務所篤志面接委員協議会	岐阜刑務所(岐阜市)
5月	笠松刑務所篤志面接活動助成	後援	笠松刑務所篤志面接委員協議会	笠松刑務所(笠松町)
6月	岐阜県難病団体連絡協議会助成	後援	岐阜県難病団体連絡協議会	岐阜県福祉農業会館(岐阜市)
6月	男性更生保護施設活動助成	後援	更生保護法人岐阜県共助会	更生保護施設光風荘(岐阜市)
7月	女性更生保護施設活動助成	後援	更生保護法人洗心の家	更生保護施設洗心の家(岐阜市)
7月	少年福祉更生活動助成	後援	岐阜少年友の会	岐阜家庭裁判所(岐阜市)
7月	犯罪被害者支援活動助成	後援	ぎふ犯罪被害者支援センター	シンクタンク庁舎(岐阜市)
7月	岐阜県児童福祉活動助成	後援	岐阜県児童福祉協議会	岐阜県児童福祉協議会事務局(瑞穂市)
7月	網膜色素変性症患者の会活動助成	後援	岐阜県網膜色素変性症協会	岐阜県網膜色素変性症協会事務局(大野町)
7月	ろう劇団「いぶき」活動助成	後援	岐阜ろう劇団いぶき	岐阜市文化センター等(岐阜市)
8月	岐阜市母子家庭 東京ディズニーリゾートバス旅行 ※延期	後援	岐阜市母子寡婦福祉連合会	東京ディズニーリゾート(千葉県)
8/19~29	ふれあいアートステーションぎふ	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	アートカフェ中日茶房(岐阜市)
8/28	聞こえサポートフェア	後援	ぎふ難聴者協会	瑞穂市総合センター(瑞穂市)
10/8	岐阜県特別支援学校チャレンジ陸上競技大会	後援	岐阜県特別支援学校体育連盟	長良川陸上競技場(岐阜市)
11/5~6	CPサッカー全日本選手権大会	後援	日本CPサッカー協会	長良川球技メドウ(岐阜市)
11/12	東海地区盲学校球技大会(ゴールボール)	後援	東海地区盲学校体育連盟	岐阜盲学校(岐阜市)
11/13~14	新光会創立70周年記念全国大会岐阜大会	後援	中途失聴・難聴者団体「新光会」	ホテルパーク(岐阜市)
11/15~28	ふれあいアートステーションぎふ	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	アートカフェ中日茶房(岐阜市)
11/19	中部手話スピーチコンテスト30周年記念講演会	共催	中部学院大学、岐阜県視覚障害者協会	中部学院大学(各務原市)
11/19	全国身体障害者グラウンドゴルフ大会	後援	岐阜県障害者スポーツ協会	長良川陸上競技場(岐阜市)
11/27	岐阜県難病連ピアサポート研修会	後援	岐阜県難病団体連絡協議会	岐阜大学サテライトキャンパス(岐阜市)
12/3	岐阜県特別支援学校駅伝競走大会	後援	岐阜県特別支援学校体育連盟	岐阜百年公園(関市)
11/28~12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団岐阜支部	岐阜支社、支局、通信局
1/17~30	ふれあいアートステーションぎふ	後援	岐阜県身体障害者福祉協会	アートカフェ中日茶房(岐阜市)
1/29	要約筆記かがり火講習会	後援	ぎふ要約筆記かがり火	岐阜市民福祉活動センター(岐阜市)
2/2	中日ロボラぎふ就学(職)支援金 贈呈式	主催	中日新聞社会事業団岐阜支部	中日新聞岐阜支社(岐阜市)

(1) 地域連携

「子どもは地域社会の中で育まれる」という原則に立ち、地域行事に積極的に参加する方針としたが、新型コロナウイルス感染症のため地域行事が中止となり参加はできなかった。サテライト「三つ葉」管理棟での地域活動の誘致を行ったが、地域行事同様に中止が相次ぎ、子ども食堂の開催1回のみとなった。

学園の福祉、保育、心理の専門職を活用して、無料電話子育て相談や対面の子育て相談、社会的養護相談に応じた。ボランティア活動日を設けて、清掃や卓球、ソフトボールなどで交流した。ボランティア新規受け入れや育成については、名古屋学芸大との連携協定をもとにボランティアの参加を促したが、新型コロナウイルス感染症の影響で少数の受け入れに留まった。

4年ぶりに開催した「青葉まつり」では、地域住民、入所児童の同級生らを招き、児童、ボランティアによる屋台や川上憲伸さん（元中日ドラゴンズ選手）、山本哲也さん（元K1選手）らのトークショーなどを行い200人を超える人が訪れた。

学生、地域住民、関係機関の見学者については、来園者の検温、抗原検査などを実施し、可能な限り受け入れた。学校教育との連携として、名南地区特別支援教育コーディネーター研修会も受け入れた。

(2) 児童の権利擁護に基づく養育方針

児童の権利に関する条約第3条、「児童に関するすべての措置をとるに当たっては、児童の最善の利益が主として考慮されるものとする。」や児童福祉法の新しい理念である子どもの権利保障に基づき、下記項目を実践した。

◆ 要望等対応（苦情解決の取り組み）

苦情等意見箱を設置したところ、当年度は42件の意見が寄せられた。意見箱にある意見については、月1回行われる児童の全体会で説明を行った。記名がされている者については個別で対応をした。また、新規入所児童には「権利ノート」とミニレターを配布し、施設での権利侵害について、いつでも相談できることを担当職員から説明した。保護者からの意見については、子どもの意向や支援方針とのすり合わせを行い、児童の福祉が保障されるように話し合った。

◆ 被措置児童の人権保障について

子どもから、「注意されるときに声大きい」「叱られている理由が分からない」など職員による人権侵害を恐れ訴えが2件寄せられた。他児への聞き取りの

ほか、該当職員に事情の聴取と指導、対応への助言を実施した。意見をあげた児童についてはメンタルヘルスを施設長が中心となり対応した。被措置児童等人権侵害等の届け出制度による中日青葉学園からの人権侵害事項の愛知県への届け出件数は0件とした。

◆ リスクマネジメント（ヒヤリハットと事故報告）

ヒヤリハット事案は15件の事案届が提出された。その都度合同研修にて注意を喚起した。子ども間の暴力は0件、性加害被害の問題は0件、職員からの児童への被措置児童虐待も0件であった。

事故報告はあおば館で2件(自転車事故)。わかば館で8件(服薬ミス等)であった。事故原因の究明と対策、児童や職員への指導も同時に行った。器物破損については、職員が草刈り時に飛び石でガラス1枚破損。その他児童がガラスや壁を破損する事故が多数発生した。

(3) その他

◆ 健康

入院数0件、児童相談所、保護者報告に至る疾病傷病等0件だった。新型コロナウイルスに感染した児童は26人、職員19人。行動制限などのルールを設定し、感染拡大防止に努めた。陽性者が発生した際は、退所支援ホームのぞみ、家族療法室にて隔離を行った。またマスク着用徹底、保護者による面会、外出、帰省時に誓約事項を設け対応をした。新型コロナウイルスの予防接種については保護者の同意を得て場合においては接種した。

◆ アフターケア

卒園者を支援する社会的養護自立支援事業への取り組みを検討したが、今年度の実施は0件であった。アフターケアについては、自殺未遂を起こした卒園者1名に対して学園内家族療法室での生活支援を2か月実施。「中日青葉学園大学進学支援金」は、あおば館は新規1名、継続5名、わかば館は継続で1名の応募があり、応募者全員が奨学金を受け取った。

◆ 愛知県指導監査・福祉サービス第三者評価

愛知県健康福祉部による指導監査が10月25日に実施された。文書による指摘事項はなかった。2月には福祉サービス第三者評価受審。自己評価の結果を受けた訪問調査においては、中長期計画における数値目標を設定するよう助言を受けた。

◆ 実習生の受け入れ

実習生の受け入れについては、保育士の受け入れあおば館12人、社会福祉実習あおば館5人わかば館5人、心理実習あおば館4人、わかば館32人、介護体験あおば館8人わかば館12名、看護実習35人、里親実習17家庭の受け入れをした

◆ 職員表彰

勤続表彰10年1名、5年2名（あおば館1名、わかば館1名）。また環境整備への意欲的な参加で3名、人員不足を補い働いた功績で1名、部活動での意欲的な指導で1名を表彰した。

◆ 関係機関との協働

日進市、豊明市の要保護対策協議会の委員、名古屋市キャリア支援アドバイザー、社会福祉士、保育士、心理系学部など各関連機関・団体の委員や講師として参加。地域の子育て支援、地域福祉の向上、後進育成の一翼を担った。

中日青葉学園人員構成

▽職員構成・職員数 令和5年3月1日現在

職員	あおば館 (児童養護施設)	人員	担当職務
館長		1	運営管理
指導課長		2	生活指導 (本園、分園)
指導係長		1	生活指導
主任事務員		1	経理事務
事務員		1	経理事務
主任指導員・保育士		2	生活指導
指導員 保育士		19	生活指導
主任心理士		1	心理治療、生活指導
給食係 (栄養士)		1	栄養管理
給食係		2	給食実務
嘱託医		1	嘱託医務
非常勤		3	生活指導 (生活補助、里親支援)
小計		35	
職員	わかば館 (情緒障害児短期治療施設)	人員	担当職務
館長 (学園長)		1	運営管理
副館長兼指導療育部長		1	指導統括 (法人本部事務局次長兼務)
精神科医・小児科医		(3)	医療業務 (非常勤)
事務課長		1	経理事務統括 (あおば館兼務)
指導課長		1	生活指導 (ホーム統括)
心理係長		1	心理治療、生活指導
主任保育士		1	生活指導
指導係		12	生活指導
主任心理士		1	心理治療、生活指導
心理士		3	心理治療、生活指導
看護師		1	看護実務
給食係		4	給食実務
小計		27+(3)	
合計		62+(3)	

▽児童数

令和5年3月1日現在

施設別	性別	幼児	小学生	中学生	高校生	その他	計
あおば館	男子	1	7	3	6	0	17
	女子	1	6	7	3	0	17
わかば館	男子		11	5	0	0	16
	女子		8	6	3	0	17
計		2	32	21	12	0	67

() 一時保護委託

児童養護施設あおば館

① 組織運営

【組織】

本園4ホーム、分園(三つ葉)2ホームの体制で運営(小規模グループケアは4ホーム、小舎制は2ホーム)。「三つ葉」には前年度先行して女子ホームさくらの家が開設していたが、当年度4月1日には、男子ホームポプラの家を開設。本園は、児童に対しよりきめ細やかなケアを展開できるように、定員を5名減らし、措置定員は35名(本園23人、分園12人)とした。

家庭復帰児童は1人。自立した児童は1人であった。幼稚園入学児童は0名、小学校入学児童は0名、中学校入学児童は4名、高校入学児童は3名、年度末高校進学児童は3名、大学進学児童は1名であった。措置延長をする児童は1名で分園から大学に進学をすることとなった。

・児童入所状況(令和4年4月1日現在)

けやき	しらかば	ひのき	もみじ	ポプラ	さくら	合計
5人	5人	6人	6人	6人	6人	34人

※男子ホーム：けやき、ひのき、ポプラ

女子ホーム：しらかば、もみじ、さくら

・児童の入退所実績

	けやき	しらかば	ひのき	もみじ	ポプラ	さくら
入所	2人	0人	0人	0人	0人	0人
退所	0人	0人	1人	0人	1人	0人

延べ入所者数は11,870日人数

一時保護児童数：男子8人・女子13人で延べ844日人数

【会議】

運営方針、ホーム運営、児童のケアに関する内容で以下の通り実施をした。あおば館会議は12回実施。役職者会議は2回実施。ホームの状況のモニタリングを行った。ホーム長会議も12回実施。あおば館の新たなコンセプトである「あおばコミュニティ」、「ホーム自治」や新たな支援の仕組みとして「自助」「互助」「共助」「公助」の体制について理解を深めるための場とした。ケース会議はケアニーズの高い児童、自立、家庭復帰を控える児童についてその都度実施した。

児童も参加するホーム会議について各ホームバラつきはあるが月1回実施した。

【職員育成】

中日青葉学園として実施する合同研修以外にあおば館として、ホーム長研修を13回実施。ビジョンに対する理解を深めることに重きを置き、ホーム運営や養育機能の確認と向上、社会的養護の現状・動向について学んだ。

他施設と合同で行う「自主研究会」は三つ葉の管理棟にて年間5回開催。職員の専門性向上を目指し、外部研修7件に延べ16人が参加した。

② 養育

ホーム運営は「自助」「互助」「共助」「公助」の仕組みづくりを実施。質の高いサービスが提供できるよう努めた。特に共助としてあおば館内コミュニティの社会資源（全体行事や部活動など）をコミュニティサービスとして意識的にケアプランに取り入れ、個々の児童の成長につながるよう努めた。

本園はケアニーズの高い児童、家庭復帰を目指す児童、里親とのマッチングに移行する児童が入所。分園は家庭復帰を見込むことができない児童の「実家機能を備えた場所」となるよう児童が帰属意識を実感できるように努めた。人権擁護を意識し、より家庭的で専門的な養育を提供できるように概ね6人のケア単位で生活支援を行った。ケアニーズの高い児童にも対応できるよう、戦略的にケアワーク、愛着の絆形成が行われるよう支援した。本園は各ホーム概ね3人の体制で職員配置を行い、分園は各ホーム4人の体制で職員配置を行った。役職職員はホーム勤務の補助に入り、スーパービジョンに努めた。学校教育については地域の小中高校や敷地内にある分校と連携をして、より専門的で質の高い支援を行った。

③ 自立支援・家庭復帰支援の方法

ケアプランに基づき、家庭復帰、自立を目指した戦略的ケアワークを行った。児童の生活上の課題に着目して対応にあたり、児童の特性や状況に合わせてオーダーメイドの支援を展開した。あおば館の各ホーム、わかば館、分校が連携しグラデーションのように変化しつつ継続できる支援となるよう努めた。支援の質や内容について、ホーム職員単位で共通理解を持ち、モニタリング、評価を行った。家庭支援についてはケア担当職員とケース担当職員を分け家庭支援専門員がケース全体のマネジメントを行った。家庭復帰や自立の拠点となる地域において、社会資源の開拓と調整を児童相談所と協働して行った。リービングケアの一環として各ホームの特色を生かし、アルバイト支援、アフターケアノート作成など、退所後の支援につなげられるように工夫した。

④ その他

(1) 分園「三つ葉」開園（社会的養育推進計画）

施設の小規模化、地域化を求める社会的養育推進計画の実現のため開設した分園「三つ葉」では、令和4年1月「さくらの家」開所に続き、当年度4月1日、男子6人が「ポプラの家」での生活を開始した。地域生活や職員との食事作りなど家庭的養育の実践がなされた。

(2) 心理対応

心理士が、個別心理療法、コンサルテーション、生活場面でのアセスメントや面談を行った。

(3) 個別対応と家庭支援

個別対応職員は、ケアニーズの高い特別な支援が必要な児童に寄り添った支援を実施。うち課題を抱えた1人の児童支援においては、生活改善の支援、アルバイト等就労等の支援を行った。

家庭支援専門相談員は、家族再統合に向け児童相談所、地域行政等と協働した。児童の気持ちを保護者に伝え、親子関係の調整のための家庭訪問を実施。本年度1人が家庭復帰した。

(4) 退所者支援

法人本部で実施する「中日青葉学園大学進学支援金事業」を活用し、大学や短大に進学した退所児童5名が継続支援を受けた。措置延長し大学進学をする児童1名も支援を受けることができ、大学生活の準備にあたった。また、生活相談、通院支援、行政手続きや住居探し、ライフストーリーワーク、再就職支援など退所者支援は多岐にわたった。

(5) 里親支援

平成30年から配置している里親支援専門相談員は、専門性を生かして里親と児童との関係づくりを支援した。児童相談所が主催する里親サロンの支援として、学園を会場にしたサロンも8回開催した。里親家庭に延べ181回訪問。養育相談はじめ、レスパイトの調整も行い、里親に寄り添った支援を行った。

(6) 地域連携と協働

地域との交流活動で、本園は「市場町側子ども会」、分園は「御岳子ども会」に加入したが、コロナ禍により殆どのイベントの開催が見送られた。

重症心身障害児施設デイサービスセンターしあわせつむぎと協働し、入所児童5人がボランティアとして、障害をもつ児童の作品作りに協力をした。2月には、しあわせつむぎにより展覧会が開催され、入所児童、職員が訪問。共同して作られた作品の展示などを観覧した。

(7) 福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉事業ポイント加算では

- ▷社会福祉実習の受け入れ
- ▷教員養成介護体験等の受け入れ
- ▷福祉人材育成への取り組み
- ▷福祉避難所
- ▷一時保護の実施300日以上
- ▷退所児童支援事業
- ▷家庭的養護

の推進の7項目5.5ポイントを申請した。

児童心理治療施設わかば館

① 組織運営

【組織】

わかば館は、男女2ホームで定員35人の大舎制をとる。4月1日の在籍児童は、小学生から高校生まで計32人。職員は非常勤を含め32人の体制で子ども達の支援にあたった。「生活の質の向上を図るなかで未来に希望の持てる日常を取り戻す」を目標に掲げて臨んだ。無断外出、器物破損、自傷行為、児童・職員への暴力など難しい対応もあったが、職員のチームワークで子どもを支えることができた。

・児童入所状況(令和4年4月1日現在)

もえぎ・男子	あさぎ・女子	合計
16人(定員17人)	15人(定員18人)	31人(定員35人)

・子どもの入退所実績

	男子	女子	計	
入所	4人	4人	8人	延べ入所者数は11,222日人数 一時保護児童数：男子3人・女子5人 で、延べ107日人数日
退所	8人	5人	13人	

入所児童のうち、1名はあおば館から措置変更。

退所児童のうち、1名はあおば館へ措置変更。

【会議】

以下のとおり児童支援ならびに運営について会議を実施した。

- (1)わかば館会議：月1回実施
- (2)現場会議：月1回実施
- (3)主任者会議：月1回実施
- (4)心理会議：月1回実施
- (5)ケース会議：月1回実施

【職員育成】

中日青葉学園として実施する合同研修以外に、わかば館では、日頃の児童との関りへの工夫につながるよう月1回、心理療法担当職員によるミニ職員研修を行った。また職員の専門性向上を目指し、外部研修13件に延べ23人が参加した。

② 療育

入所児童全員のケアプランを作成し、個々の児童の支援についての計画性をはかったが、全職員や対象児童が意識して取り組んでいるとまでは言えず、ケアプランと支援内容に差異があるなど課題の残る状況。来年度については、1ケースごとに施設長、指導課長、心理係長を中心にスーパーバイズを行い、ケアプランの作成から運用までを丁寧を実施していく予定。

年度当初に掲げた基本方針である（1）日課に基づいた生活指導を行い基本的な生活習慣の習得を目指す（2）診療療法担当職員による個別のセラピーを実施する（3）小中学生は敷地内の分校に通い、能力や特性にあわせた教育を保障する（4）園内の行事や部活動、余暇活動をグループワークとして活用。それぞれの子どもの発達、自己肯定感の向上、自己実現や自立支援など、健やかな成長につなげる（5）園外活動を通じ、子どもの社会性が深まる体験活動を企画する（6）必要に応じて、医療機関と連携し、より専門性の高い療育を提供する（7）すべての専門職が権利擁護を意識し、子どもの最善の利益を目指す（8）専門職については、それぞれの役割を明確にし、連携することにより質の高い療育を提供するの8項目については、コロナ禍で実施が困難な面もあったものの、実施時期を変更したり規模を縮小するなどの工夫をしたうえで、おおむね達成している。

一方、（7）については、権利侵害につながる恐れのある対応が2事例あったことから、指導療育部長、指導課長が、それぞれの職員に対し、週1回程度のスーパーバイズを実施。職員の対応も改善しつつあり、児童との関係も良好なものとなっている。

③ 自立支援

児童心理治療施設としての支援を完了した児童9人が、家庭復帰を果たした。退所児童3名に対しては、本人の特性に合わせ、保護的就労やグループホーム、自立支援ホームなどでの生活に移行できるよう、支援機関への情報提供などの連携を行った。また中学生1名が、高校進学や地域での自立した生活を目指して、あおば館に措置変更した。令和2年にあおば館へ措置変更した児童の就労へ向けた支援についても、あおば館職員の助力となるよう側面的支援を行った。

大学生、社会人、グループホームで地域生活を送る退所児童に対しても、必要に応じ定期連絡や訪問、家族療法室を利用した実家機能、医療機関への受診支援などを実施し、学生生活、就労、地域生活が維持され、さらにより良い生活を送れるよう支援を実施した。また、退職や人間関係の不和などで、生計の維持が困難となった退所者に対して危機介入し、通院の付き添い、生活保護の取得や就労支援、定期面談などを実施し、安定的な生活が送れるよう支援した。

④その他

(1) 性の問題を考える会

東海エリアの児童福祉施設や医療機関の職員、医師などで作る「性の問題について考える会」の事務局を、わかば館の心理療法担当職員が中心に担った。性教育、性化行動の対応などについて最新の情報と専門知識を学ぶため、当年度は3回(Web 2回、ハイブリッド1回)を実施した。

(2) 性教育

性教育を専門に取り組む看護師を迎え、中学生男女と退所を控えた児童を中心に13回(参加児童はのべ42人)実施した。

生活の中での性教育の在り方を考え、日々の支援に生かした。また、学校との情報交換も行った。

(3) 心理対応

不登校や情緒不安定な児童のほか、最近は発達障害児や重篤な虐待を受けて入所する子どもが増え、生活場面で特別な配慮が求められることが多くなっている。心理職が、わかば館1階の治療棟で1回45分程度の個別のセラピーを行った。子どもと心理士の関係性を基盤に日常生活の生きづらさに折り合いがつけられるよう心理士の知見を基にアプローチした。また、指導員、保育士と子どもの見立てについて協働し、生活全体が治療的環境になるように整えた。

また、非常勤の精神科医には子どもとの面談、カンファレンスへの出席、行事への参加など、多様な側面から子どもとの関わり持ってもらい、子どもの状態の見立てや療育方法についてのスーパーバイズを受けた。加えて、職員との面談を通して職員のメンタルヘルスについてもアドバイスを受けた。

(4) 家庭支援

子ども1人1人の特性に合った治療・支援が行えるように、子ども1人に対し生活担当、心理担当、家族支援担当の職員を配置し、三者が共同してケアプランを作成。よりきめ細かい支援が行えるようにしている。

(5) 児童支援

入所児童の多くが心療科に定期的に通院しており、医療機関との連携強化に努め、個々のケースに合わせてより専門的な視点で治療が行えるようにしている。

児童相談センターとも連携し、保護者への子育て支援プログラムの実施や、家庭復帰を目指して地元校や各関係機関や支援者との関係者会議等も積極的に行い、家庭復帰や児童養護施設等への措置変更に役立てた。

日々の取り組みでは、男女それぞれのホームで毎日その日を振り返る「もえぎ会議」「ガールズミーティング」を継続して実施。子ども達の意見を言える場を設けている。

(6) 学習

小学生の希望者を対象に、週2回公文式学習を導入。高校受験については、個々の進路に応じた学習に取り組めるよう分校と連携して個別対応を実施した。

(7) 福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉ポイント加算では

- ▷福祉人材育成
- ▷教員養成介護体験
- ▷福祉避難所
- ▷一時保護委託の実施
- ▷被虐待児の受け入れ
- ▷退所支援事業
- ▷保護者支援事業

の7項目で6ポイントを取得した。

中日青葉学園主な行事

開催日		事業名
4月	5日	園内新人研修、ラーメン訪問
	6日	北小学校,高校入学式、ラーメン訪問
	7日	日進中学校入学式、
	29日	つつじの会
5月	1～4日	ゴールデンウィーク外出 (サーカス、トランポリン体験、アスレチックなど)
8月	17日	施設長会 卓球大会
	19・22日	わかば館 目的別活動(海水浴・もくもくファーム)
	22・29日	あおば館 目的別活動(映画鑑賞・琵琶湖旅行ほか)
	24日	両館合同 目的別活動(常神半島 素潜り体験、釣り体験)
9月	10日	わかば祭り
	19日	施設長会 ソフトボール大会
10月	15日	愛知韓国青年商工会による焼肉訪問、ダンス体験
	29日	青葉まつり
11月	6日	花塾 フラワーアレンジメント教室
	19日	AZON「愛の音プロジェクト」楽器寄贈・演奏指導
	26日	あおば館 もみじ・さくらの家合同ハイキング@七五三参り
	27日	あおば館 ひのきハイキング
12月	3日	フラワーアレンジメント協会 クリスマスリース教室
	10・17日	中日森友隊活動(環境整備ボランティア)
	18日	ハーレーサンタ訪問
	23日	両館合同クリスマス会
	30日	餅つき
1月	28日	ドローン体験
2月	4日	養育里親映画上映会(里親フォスタリング事業)
	11日	中央ライオンズクラブ いちご狩り招待
3月	18日	巣立ちの会

主な行事、出来事の写真



つつじの会 ハイブリット開催
(4月29日)



三つ葉でのバーベキュー
(7月26、27日)



焼肉訪問
(10月15日)



青葉まつり
(10月29日)



青葉まつり 川上憲伸さんらの
トークショー(10月29日)



フラワーアレンジメント教室
(11月6日)



クリスマス会
(12月23日)



たくさんのサンタさんに
訪問していただきました(12月)



NTP名古屋トヨペット様より
自動車の寄贈(12月24日)



あおば館ホーム外出
(2月)



いちご狩り招待
(2月11日)



巣立ちの会
(3月18日)

子育て短期支援事業

児童養護施設中日青葉学園あおば館では、日進市、東郷町、豊明市と提携し、提携市在住の保護者が疾病等の理由により、一時的に児童の養育が困難になった際に該当児童を養育が再開できるまでの間、保護者の代わりに保護、養育を行う「子育て短期支援事業」を実施している。

住宅地開発により子育て世帯が急増している長久手市からの要望もあり、提携に向けて調整を実施。令和5年度からは新たな提携先となる。

当年度の実績は、以下のとおり。

提携市町	実施月	人数	利用日数
日進市	4月	1人	2日間
東郷町	8月	1人	3日間

社会福祉充実計画

今年度は実施しておりません。

地域における公益的な取り組み

中日青葉学園内にフリーダイヤルを設置し、社会福祉士、保育士、心理士などによる地域住民からの子育て相談を実施。

当年度の利用実績は下表のとおり。

【新規相談件数】 総数 6件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

【継続相談件数】 延べ件数 3件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【主な相談内容】 ※重複あり

子育て一般	発達相談	不登校	虐待	いじめ	その他
1	3	2	0	0	0

里親フォスタリング事業

令和2年度より、愛知県から里親を増やす啓発活動などを行う「里親制度重点エリア啓発及び里親研修事業」を受託し、中日青葉学園内に事務局として「フォスタリングセンター」を設けてさまざまな事業を行っている。重点エリアは年度ごとに代わり、当年度は北名古屋市と東海市を重点エリアとし、スーパー等で休日を含めた定期啓発活動を実施。市内の店舗や行政機関と連携を図り、普及啓発に努めた。両市で、毎月1回ずつ休日に、養育里親体験発表会を開催。里親をしている方に実体験を披露してもらおうと共に、グループに分かれて質疑応答する機会を設けて移行支援につなげ、登録を目指す家庭を増やす活動に取り組んだ。

【啓発事業】

スーパー等	イベント等	新聞掲載、折り込み チラシ配布など
8回	4回	5回

【SNS等の発信】Instagram Facebook

投稿	フォロワー数
83件	293件

【養育里親体験発表会】※重複あり

実施回数	参加者
20回	延べ271人

【研修事業】基礎研修 登録前研修 登録前演習 更新研修

実施回数	参加者
5回	延べ56世帯

【まとめ】基礎研修 登録前研修 登録前演習 更新研修

移行支援	前期登録	成育歴調査
12世帯	1世帯	4世帯

高額寄付(一般)

(令和4年4月～令和5年3月) 敬称略、順不同

本部 (20万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
JSA中核会名古屋支部	名古屋市	JAあいち知多	半田市
NTP名古屋トヨペット	名古屋市	稲沢市職員互助会	稲沢市
藤田 隆	名古屋市	加藤 政隆	名古屋市
おおやま歯科医院	名古屋市	サンヨネ・お客様	豊橋市
トヨタカローラ愛知	名古屋市	真城	名古屋市
トヨタ紡織 飛躍の会	豊田市	林 高生	名古屋市
トヨタ紡織 課長会	豊田市	日本特殊陶業	名古屋市
トリックス	津市	ひまわり	名古屋市
ネットトヨタ中部	名古屋市	協栄興業	東海市
若立会	名古屋市	五月会	半田市
愛知県中古自動車販売商工組合	飛島村	中部日本書道会	名古屋市
旧城見通3丁目町内会	名古屋市	荒川 光夫	名古屋市
陶工房鳴海	名古屋市	買取王国	名古屋市
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	東レ岡崎工場	岡崎市
トランコムEX中日本労働組合	東海市	三好カントリー倶楽部シングル会	みよし市
市川 日出明	津島市	知多信用金庫	半田市
松本三良記念福祉会	東海市	中央電気工事	名古屋市
新東工業	名古屋市	尾西美術作家協会	一宮市
成田山 索の会	犬山市	中日新聞子ども夢プロジェクト事務局	名古屋市
成田山 名古屋別院 大聖寺	犬山市	東海マツダ販売労働組合	名古屋市
オリエンタル興産	名古屋市	名古屋美術商協同組合	名古屋市
オリエンタルビル	名古屋市	東郷産業	名古屋市
第一生命労働組合中京総合支部	名古屋市	名古屋競馬	名古屋市
萩原電気ホールディングス	名古屋市		

*匿名は省かせていただきました

高額寄付(一般)

(令和4年4月～令和5年3月)敬称略、順不同

北陸支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
石川近鉄タクシー・同労働組合	金沢市	一真会 大口水産労働組合	金沢市
こばと保育園・こばと第2こども園	小松市		

東海支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
第41回ふるさと知名人チャリティー色紙展	浜松市	浜松仏教会	浜松市
アベル	浜松市	竜ヶ岩洞	浜松市
浜松ロータリークラブ	浜松市	雄踏町仏教会	浜松市
浜松倉庫	浜松市	藤田 薫	浜松市
静岡第三同志会	袋井市		

東京支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
「小さな親切」運動 ちばぎん支部	千葉市	千葉興銀ともしびの会	千葉市
六代目三遊亭圓窓師匠追悼 旧落語っ子連一同	横浜市		

岐阜支部 (10万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
岐阜県指定自動車教習所協会	岐阜市	水都タクシー労働組合	大垣市
岐阜社会福祉事業協力会	岐阜市	中部日本書道会岐阜支部	各務原市
全日本ロータス同友会岐阜支部	岐阜市	中部日本書道会濃飛支部	高山市
岐阜信用金庫	岐阜市	加茂郡市養蚕組合	美濃加茂市
鳳建設	岐阜市	イシデンエンジニアリング	恵那市
岐阜ゾンタクラブ	岐阜市	石原電機工業	中津川市

中日青葉学園 (20万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
NTP名古屋トヨペット・社会貢献推進委員会	名古屋市	中部建材センター	みよし市
大矢相互不動産	稲沢市	名古屋銀行	名古屋市

*匿名は省かせていただきました

高額寄付(指定)

(令和4年4月～令和5年3月)敬称略、順不同

本 部 (20万円以上)		
団体名(会社名)	市町村名	贈呈先
愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
愛知日野自動車 親和会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
愛知県中古自動車販売商工組合	飛島村	東海交通遺児を励ます会
徳弘 妙子	名古屋市	中部盲導犬協会
豊田自動織機	刈谷市	大相撲名古屋場所招待
名古屋溜会	名古屋市	大相撲名古屋場所招待
西浦不動無量寺	蒲郡市	愛知県健康づくり振興事業団

*匿名は省かせていただきました

社会福祉法人 **中日新聞社会事業団**

	所在地
本部事務局	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内 Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839
北陸支部	〒920-8573 石川県金沢市駅西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内 Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831
東海支部	〒435-8555 静岡県浜松市東区葉新町45番地 中日新聞東海本社内 Tel. 053-421-6217 Fax. 053-421-5987
東京支部	〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社内 Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3580-5452
岐阜支部	〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内 Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010
児童養護・児童心理治療施設 中日青葉学園	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164 Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315